

埋文やまがた



2002年2月28日
第22号



縄文やまがたフェスティバル

財団法人 山形県埋蔵文化財センター

YAMAGATA PREFECTURE ARCHAEOLOGY CENTER

〒999-3161 山形県上山市弁天二丁目15番1号 TEL 023-672-5301(代) FAX 023-672-5586

ホームページ：www.yamagatamaibun.or.jp

メールアドレス：kenkyuuka@yamagatamaibun.or.jp

縄文やまがたフェスティバル開催!

去る12月2日、山形市にて県教育委員会と当センターが主催して「縄文やまがたフェスティバル」を開催しました。縄文人の生活を体験できる5つのコーナーのほか、県内各地で発掘された縄文時代遺物の特別展示、文化庁の岡村道雄氏による記念講演など、盛りだくさんの内容でした。また、フェスティバルと併せて今回で3年目となる発掘調査報告会を行い、今年度に発掘された県内6遺跡の調査成果を発表しました。当日は延べ1,000人を超す来場者があり、大盛況でした。その時の様子をご紹介します。

縄文やまがた フェスティバル

入場無料

2001・12・2 (日)
山形国際交流プラザ (ビッグウイング)

- 記念講演
文化庁主任調査官 岡村道雄 「縄文の生活誌」 14:00 ~ 16:00
- 平成13年度 山形県埋蔵文化財発掘調査報告会 10:00 ~ 14:00
- 体験コーナー「縄文時代の衣と食」 9:30 ~ 15:00
- 遺物展示「縄文時代の器」 9:30 ~ 15:00
主催 山形県教育委員会 (財) 山形県埋蔵文化財センター
後援 米沢市教育委員会

縄文
やまがた
フェスティバル

みんな
おいでよ

2001.12.2 (日)
9:30~16:00

山形国際交流プラザ
ビッグウイング

縄文時代体験コーナー
9:30~15:00

「BACK TO THE 縄文」
記念写真

「縄文生地 アンティーク館」
コースター作り

「アクセサリー 縄文や」
まがたま作り

「縄文食にトライ」
クッキー作り

「クイズで縄文食をゲット」
クイズラリー

石器作りも
見られるよ!

入場無料

特別展示「縄文時代の器」

形や文様の移り変わりがわかるように5つの時期に分けて展示しました。





県教育長あいさつ



発掘調査報告会と記念講演が行われました。



岡村道雄氏（文化庁記念物課主任文化財調査官）による記念講演「縄文の生活誌」。各地の発掘調査から明らかになってきた縄文時代の人々の生活について、スライド映写を交えながらお話していただきました。



多くの来場者の皆さんが報告会と講演に熱心に耳をかたむけていました。



縄文文化についてのビデオ上映も行いました。

縄文食にトライ!

チャレンジした人たちの第一声は「ドングリクッキーまずくない!おいしいよ!」との驚きの声。

事前に当センターで渋抜きしたドングリの実を、参加者が会場で石皿と磨石(すりいし)を使って縄文風クッキー作り。少々たねあかしをすれば、ハチミツや長芋はスーパーで購入したもの。縄文人は現代人が考える以上にグルメかも!

(渡辺淳一)



↑子供のチャレンジに負けじとはりきるお母さんトリオ?!



「ほんとに食べられるのかな?センターの人には悪いけど……。」

こんなところに縄文人!



今回のために、はるばる仙台から参上、石器づくりの名人、縄文人(大場正善さん)です。



「へえ、石を使えばクルミが割れるんだ。お母さんって、すごいなあ!」

縄文生地アンティーク館



縄文の布（あんぎん）の再現！あんぎん台やこもづちなどの道具を使って編み布作り（コースター作り）。さあ、さっそく体験。



編み始めた参加者の皆さん。さすがに女性が多いようです。縄文のむかしに思いをよせて、1本1本丁寧に編み始めました。

編布（あんぎん）とは、糸の材料が植物の繊維で作られている縄文時代の布で、日本で最も古い布とされています。布の服を作るために始まり、その用途は土器を作る時の敷物や漆を漉すため、採集物を入れる袋などにも使っていたと考えられています。県内では1985年に高島町の押出遺跡から、約5500年前の編布が発見されました。箕の子や簾、俵などと同じ編み目になっている編布もあり、今日までその技術が受け継がれてきています。

（岡崎賢一）



もうすぐ完成。あとは糸を結び、切るだけです。約1時間、編み始めると結構はまってしまいます。上手な出来映えに、お母さんも感心！



編布で作ったほかの作品です。今日でいうなら、コースター、バック、ポシェットといったところでしょうか。縄文時代にも同じような物が作られ、人々のくらしの中で使われていたのかも。

BACK TO THE 縄文!



衣装や小道具を身に着けて、気分は早くも縄文人?!



準備ができれば撮影です。
ハイ、ポーズ!! 特撮スタジオみたいですね!!



デジタルカメラで撮影した
画像はその場ですぐ編集です。
埋文センター職員の縄文人
がハイテクを駆使しています。

20分ほどで完成です。



こんな記念合成写真ができました。まるで縄文時代にタイムスリップです!

……決して捏造ではありません……あくまで合成です!
写真は絵葉書で記念のお土産となりました。

画像の素材は、新潟県立歴史博物館・長野県立歴史館から資料の提供をいただきました。ありがとうございました。

(佐竹桂一)

アクセサリー 縄文や



さあ、どんな形にしようか、ワクワク考えながら作ります。



一番根気があるケズる作業。だんだん形ができてきたゾ！

「勾玉づくりって、ものすごく時間がかかる仕事だったんだね。」腕が痛くなってきたと言いながら、そんな言葉をもらす皆さんが多くいました。今回使った石材は滑石かつせきという最も軟らかい石です。実際に滑石の勾玉も出土していますが、多くはヒスイやメノウなどのたいへん硬い石材で作られています。きっと、当時の縄文人は皆さん以上の感動を味わっていたのかもしれない。

(松田道雄)



デザイン



粗形



磨き



仕上げ

山形市 嶋遺跡



山形市の北西、江俣の北側に嶋遺跡があります。馬見ヶ崎川の扇状地扇端部に位置し、本流と支流に挟まれた島状の地形から、俗に「シマ」と呼ばれています。昭和36年、土地改良区による区画整備事業を進めていく中、おびただしい柱痕群や土器片が発見されました。かつてここに「島千軒」という集落があったという当地域での言い伝えもあり、次年度より3ヵ年にわたって調査が行われました。遺跡の範囲は、東西120m、南北70mに及びますが、調査された区域は、推定される遺跡の一部に過ぎないものでした。嶋遺跡は泥炭地であり、調査は困難をきたしたようです。しかし、一方では豊かな水量が、嶋遺跡を、特に木製品を長年にわたり守り続けてきました。

嶋遺跡からは、土師器、須恵器といった多量の土器をはじめとして、木鋏・木鋤・大足・田下駄などの木製農具、弓・鞍橋などの生活用具、櫛・骨製髪飾などの装身具、土製玉類・木製装身具などの祭祀用具、梯子・鼠返しなどの建築部材などのほか、ヒョウタン・桃・クルミ・栗・トチ・スモモ・麻・ウリなどの種子も出土しています。このような遺物から、当時の生活の様子が窺われます。また、出土した約100本の柱の中には、地中に打ち込まれた状態のものも数多く見つかりました。その中で、住居跡・倉庫跡が各1棟確認され、ほかにも建築物が数棟存在したものと推定されています。住居跡は方形で、9本の打込み柱から構成されています。また、高床式と考えられる2間×3間の建物から、大量の炭化粉が出土しています。柱は、沈下を防ぐため根元近くに横木を通して、さらに枕木を置くという工夫がなされていました。

このような遺構と遺物などから、嶋遺跡は古墳時代後期の農耕集落として存在していたことがわかりました。昭和41年12月、重要遺跡として国の指定を受けています。現在も水田地帯が広がっておりますが、新たな区画整備事業が計画されているようです。(福澤美幸)

Illustration ©KurosakaHilomi



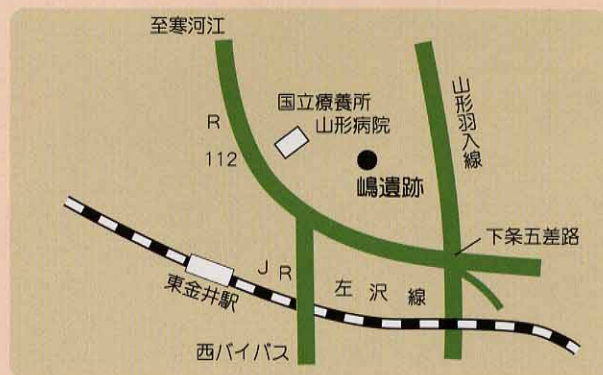
南から望む嶋遺跡



調査区



木製品出土の様子



資料提供：山形市教育委員会（平成5年度調査から）

「埋文やまがた」の購読について

広報誌「埋文やまがた」購読ご希望の方は、当センターまで電話にてお問い合わせ下さい。なお、郵送料はご負担いただきます。

電話 023(672)5301 (代表)

編集後記

冬季五輪が終わりましたが、6月にはサッカーW杯の開催と大きなスポーツイベントが続きます。間もなくJリーグの開幕ですが、モンテディオ山形は今年こそJ1昇格を果たしてもらいたいものです。我がセンターでは、毎年秋に行われる同業者による南東北3県のソフトボール大会で今年度みごと優勝しました。連覇へ向けて植松監督が春からはりきっています。